

会議録（会議結果概要）

名 称	令和7年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会
開催日時	令和7年11月28日（金） 14:00～16:00
開催場所	各務原市産業文化センター 7階 7-1会議室
出席者	富樫幸一会長、尾関智恵様、阿部雄介様、近藤亜矢子様、磯谷和彦様、 藤井聡美様、福睦徳様、鵜飼明男様、松井大輔様、別宮理恵様、今尾真也様、 津崎陽菜様、田頭香歩様
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	<p>次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1） 各務原市総合計画・しあわせ実感かかみがはら総合戦略の達成状況について</p> <p>（2） 各務原市のまちづくりに関するグループでの意見交換</p> <p>3 閉会</p>
	<p>1 開会</p> <p>≪事務局より説明≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 <p>≪企画政策課長あいさつ≫</p> <p>2 議事</p> <p>（1） 各務原市総合計画・しあわせ実感かかみがはら総合戦略の達成状況について</p> <p>≪事務局より説明≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4：各務原市総合計画後期基本計画「事業の達成指標」達成状況 ・資料5：第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略「重要業績評価指標（KPI）達成状況 <p>≪意見交換≫</p> <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これほど毎年市民アンケートしている市はない。例えば、5年間の計画であれば、5年ごとに実施することはよくあるが、過去にさかのぼっても各務原市はアンケートが多い。過去には、全世帯を対象としたアンケートも実施されており、市民の皆さんの意見を多く聞いている。 ・アンケートの結果で測定する主観的指標と、人数や実績などの数値で測定する客観的指標というのは、ずれていると思うことがある。また、市によっては、年齢、性別、地域などの要因で違いが出ることもある。そういったところについても、皆様からコメントをいただきたい。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から6年度までの指標の実績値について、資料でお示しいただいたが、やはりコロナ禍の影響は強いと感じる。コロナ禍を過ぎ、これからは実績が伸びていくのではないかという前向きなポイントがあれば教えていただきたい。

	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の機会が対面で実施できないことや、中止していたイベントなどがあったが、それが少しずつ元に戻りつつあるというのは、資料の分析にも記載させていただいた。このように、コロナ禍で実施できていなかったものが再開したことから、対話の部分などについては、今後さらに上昇していくのではないかと考えている。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういったところが次の振り返りの中に出てきてほしい。また、今回の資料は反省文のようにも読めるが、数値では見えないところで、この部分がこのように変わったなどのコメントがあると良い。 <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戻る部分もあると思うが、コロナ禍でやめていった事業もある。以前と同様にはできなくなり見直した部分もある一方で、オンライン化が進み、コロナ前にできなかったものができるようになってきている部分もある。必ずしも元通りである必要はない。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民満足度調査に関して、18歳以上市民の回収率が39.7%だが、これは結果に信頼を置けるだけの回収率なのか。また、回答者の年代について、例えば、サンプルが高齢者に偏った場合などは、結果の信頼度に疑問が出てしまうと考える。逆の場合もあると思うが、その辺りの結果の信頼度はどうか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率は毎回事度の割合で推移しており、今回の調査では前回より少し上昇した。この結果については、統計的に信頼できる結果であり、市民全体を対象に実施したとしても概ね同じ結果が得られるものと確認している。また、ご意見の通り、地区ごとや年代ごとの集計も行っており、調査方法についても、例えば、若い年代の意見を抽出することも可能な形で実施している。 <p>【会長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40%は回収率としては高い。子育て等に関する意見は、年齢別で結果が違う可能性があるため、そういった部分だけでも年齢別でクロス集計するのも良い。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育として「夢チャレンジ事業」を実施しているが、この事業は、講師を各学校に招いて講演を行ってもらうというもののか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校から代表者を選び、市長や市内企業の社長などの講演を聞くものである。そのため、それほど大人数を対象とした事業ではない。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は司会の仕事をしているが、最近興味深かったのが、名古屋市が開催した「ミライトラベルDAY」というイベントである。内容は、企業展のように様々な企業が吹上ホールに集まり、小学校が数校選抜され、様々な企業の話聞いて回るといったものであった。参加者は様々な企業の話聞くことがで
--	--

き、また企業側にもニーズがある事業だったため、とても良いと感じた。各務原市では講師を招いて話してもらう機会の他に何か検討していることはあるか。

【事務局】

- ・今思い浮かぶものはないが、指標の数値が後期基本計画策定時から下がった状況であるため、夢チャレンジ事業の他にも、商工会議所やその他の市内の様々な団体との連携も視野に入れ、キャリア教育を進める必要があることは認識している。教育委員会側も重要と捉えているため、ご意見を伝え検討してもらう。

【委員】

- ・「市民のアイデアや意見が市政に反映されていると感じる市民の割合」に関して、「コロナの影響で活動が少なかった」「今後は、若い世代の意見を聞きたい」と分析しているが、若い世代というキーワードが入ってくる理由やデータなどはあるのか。

【事務局】

- ・市内の大学の代表者と市長が直接対話する機会などを設けていたが、それがコロナ禍ではできなかった。今はそれが少しずつ戻りつつある状況である。
- ・また、これからのまちづくりを進めるにあたり、この懇話会にも大学生の方にご参加いただいているように、若者の意見を取り入れていく必要があると考えている。令和7年度からスタートした総合計画を策定する際にも中高生や大学生等のご意見を伺い計画に反映しているが、もっと市として強くやっていきたいという思いを持っている。

【委員】

- ・私たちは情報発信をする際に、対象の年齢層を決めてピンポイントの発信を行ったことがある。労働相談などの情報を高齢の方や小中学生に発信しても仕方ないため、例えば18歳から55歳までなど、ターゲットを絞った発信も今後考えていくのが良いと感じた。

【委員】

- ・資料を見て、どの分野も情報発信の不足や発信の強化が課題とされている。せっかく様々な取組をしているのに、うまく発信がされていないことが、全体として改善すべき点だと感じた。

【委員】

- ・「身近にスポーツに親しむ機会や環境があると感じる市民の割合」について、今後の取組方針で、「愛知・名古屋2026年アジア競技大会のホッケー競技の開催地となるため、その機会を生かして市民がスポーツへの関心を高めるきっかけとなるような取組を推進する」と記載されているが、それ以外には何か取組を考えているのか。

【事務局】

- ・例えば、スポーツげんき祭というこどもたちがやったことのないスポーツにチャレンジする取組や、各種スポーツ少年団等と連携した体験講座などを実施している。また、これに限らず、裾野を広げるような取組は行っているが、それに加え、来年度にはこのような大規模なイベントがあるため、この機会を生かした方が良いという考えから、資料に記載している。

【委員】

- ・各務原市で生活し、また、仕事をしているが特段不満がないため、数値がこれほど低いことに驚いている。行政なので、満遍なくやられているのだと思うが、特に力を入れている点を教えてほしい。また逆に、個人的には指標として測定しなくてよいものもあるのではないかと感じるが、今後削っていく考えはあるのか。
- ・企業では待遇の改善や昇給があったとしても、従業員は徐々に慣れていきそれが普通になってしまう。指標の数値についても同様に、悪くなっているわけではなく、それに市民が慣れてしまっているだけとも考えられる。例えば、企業で言えば、隣の企業より給料が高い、待遇が良いと言われると、勤め続けてもらえることもあると思う。それと同様の考えから、他市との比較でKPIがつかれないものなのかなと感じた。

【事務局】

- ・行政としては基本的に全てにおいて力を入れているが、市長は対話を重要と捉えていることから、総合計画でも基本目標 1 に位置付けて特に力を入れている。また、削るという部分では、大きい項目を削るのは難しいが、それに紐づく細かい事業に関しては、役割を終えたものやニーズがなくなったものは削るという考え方は持ち続けていかなければならないと考えている。
- ・他市との比較に関しては、客観的なところは人口規模の違いなどがあるため難しいが、主観的なところについては比較できる部分もあると思うため、今後の参考にさせていただく。

【委員】

- ・各務原市より田舎の地域に住んでいるが、自治会の運営にかなり困っている。特に消防について、若い人がいて運営できている地区もあれば、平均年齢が40代以上となり、この地域で火事になったらどうなるのだろうと考えてしまう地区もある。こういった部分にどのように携わっていただけているのか疑問に思った。

【委員】

各務原市は海拔が高く風水害に強いこと、人が温かいことから、非常に住みやすいところだと感じている。また、若手の意見をもっと聞いて、それを具現化するような取組をしてほしい。本日は若い方が2人参加しているが、もう一人くらいはいてほしい。若い方の意見が積み上げられ、それを市政に反映させていくことが必要だと考えている。

【委員】

- ・資料に記載された様々な事業に関して、商工会議所も市の職員の方と一緒に実施しているものも多くあるが、市の職員の方はこの目標に向かって一生懸命取り組んでいると感じている。
- ・「市外での市主催合同企業説明会等におけるマッチング件数」の達成状況は「〇」にはなっているが、やはり市内企業の人手不足は解決されておらず、ますます人がいなくなっている。そしてやっと採用したとしても、すぐ辞めてしまうということがよく聞かれる。
- ・新聞にも載っていたが、岐阜県の女性、特に高校生や大学生は、そのまま市外に出してしまう確率が非常に高いという結果が出ていた。市内企業で、女性や新卒の人がしっかり働ける環境を整えていきたい。

【委員】

- ・この資料のように、頻繁にアンケートを取って確認していただいていること

	<p>に感謝申し上げる。その中で、目標値をどのように設定するのが正しいのが我々ではわからない。7～8割を目標としているものから、4割ぐらいのものもあり、そのため達成状況の「○」「×」はあまり意味がなく、それよりも、こういった質問に対し、駄目だと答えた方たちが何を駄目だと思っているのかなどについて検討していけると今後に繋がるのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標があると答える児童生徒の割合」について、今はまだ66%だが、これが8、9割になるようなまちになれば、まち自体に活気が沸き、こどもたちも市外に行くことなく各務原市で力を発揮してもらえようになり、良いまちになるのではないかな。私も自分の立場で、こどもたちが夢や市への愛着を持つことや、市内の企業に就職したいと思えるようになるための取組をしていきたい。 ・中学校の部活動を廃止して地域移行するという動きについて、PTAという立場で懸念がある。中学校や保護者から様々な意見を聞いていると、部活であれば学校帰りに気軽にスポーツができたが、保護者クラブや地域クラブになると、親が段取りしなければならないことや、土日に学校以外へ送っていかねばいけないことなどから、中学校のこどもたちが部活をやめるなど、スポーツ離れが進んでいる。資料に記載されている44%というのは、市内全体の話だと思うが、特に中学生においては全くスポーツをやれる環境になっていない。また、部活動の地域移行は市町村によって取組が違っており、行政として全て管理し段取りしているところもあれば、民間のスポーツクラブに全て委託しているところもあり様々だが、各務原市は保護者クラブ頼みというところが強い。一生懸命やる保護者がいるところは何とかやっていけるが、そうではないところは、こどもたちがスポーツをする環境がなくなっている。小中学生が気軽にスポーツができる環境をうまく整えていただきたい。 <p>(2) 各務原市のまちづくりに関するグループでの意見交換</p> <p>≪グループでの意見交換≫</p> <p>≪発表 テーマ①市内外(特に若者)への情報発信について≫</p> <p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会アプリである「結ネット」について、若い人にはそれがどのようなものかわからないため、登録しようという気持ちが起きない。同様に、発信されている情報についても、自分の興味のあるものは見るが、興味がない分野にはわざわざ目を向けない。 ・また、ターゲットに応じて様々なメディアを使うなど、発信の仕方を工夫する必要があるという意見や、高齢者への配慮も必要であるという意見があった。 <p>【Bグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、自分たちが普段どのようなものから情報を得ているかという話から始まり、私はT i k T o kなどから情報を得ているが、他の方は人伝いが多いなどの違いがあった。そもそも、T i k T o kとI n s t a g r a mの違いがわからないという意見があったが、I n s t a g r a mは自分で検索しないと情報が得られず、T i k T o kは興味がない分野の情報についても無差別に出てくるという違いがある。そのため、まずT i k T o kから情報を得て、そこから自分が気になったものはI n s t a g r a mで検索し、詳しい情報を得るという使い方をしている。 ・また、全ての方に情報を届けるというのはもう不可能という意見もあった。そのため、必要なときに必要な情報を自分たちで取りに行ったときに、わかりやすく、興味が沸く内容となっていると良いのではないかな。
--	--

≪発表 テーマ②各務原市に「移住定住してもらう」ために必要な取組について≫
【Aグループ】

- ・各務原市には会社が多く、また、自衛隊があることから、長期間住むというよりは2～5年の短期間で暮らす人が多いという意見があった。そのため、定住も大事だが、その期間に住んでいてよかった、面白かったと思ってもらえるようなものが必要ではないか。また、外国人労働者もいるため、そういった方に定住してもらうための例えば食べ物などのソフト面での交流など、難しいことばかりではなく近所の繋がりなどができるような取組をすると良いのではないか。
- ・自治会に入らない人が増えていることについて、他県で自治会加入率が90%を超えるところでは、地震等の災害時における安否確認、避難誘導などの役割を伝え、脱退に至らなかったケースがあったようである。
- ・また、企業の取組として、同じ年代だけではなく、ベテラン、中堅、若手、新人でグループをつくり、食事やミーティングをそのグループで開催することで年代を越えた活発な交流につながったという事例を聞いた。そのような横だけではなく縦の繋がりも重要と考える。

【Bグループ】

- ・グループでの意見交換のテーマについて事前に調べたところ、地方創生について、岸田、石破政権では人を戻す、増やすという方針で進んでいたものが、高市政権では、人口は減ることを受け入れ持続可能な地域構造にしていこうという方針となったようである。それを踏まえると、日本全体の人口が縮小していく中で、人を取り合うことが正しいのか疑問である。また、個人の生き方として、その人がやりたいことを最大限にできることが日本の国力を生かすことだと考えると、本日のテーマではなく、地域が稼ぐ力をどう増やしていくかについての議論をしたいという要望がある。一方で、各務原市として魅力あるまちづくりを行うことは、個人が選択するうえで重要だという話にもなったため、テーマに沿って本日の話し合いを進めた。
- ・私は各務原市で会社を経営しているが、県外から働きに来る人もおり、そういった方々に少しでも長く働いて欲しいと思っている。会社としては、給料を上げたり待遇を良くしたりはするが、まち自体が面白くないとそもそも長く働いてくれないとも考える。大学を選ぶ際も、京都に住みたいから京都の大学を受験するなど、まちの魅力を基準に選ぶこともあると思うため、京都までは難しいかもしれないが、各務原市をどのように魅力的な場所にしていくのが重要であり、移住定住してもらうためにはまちの魅力を上げていく必要性があるという意見となった。

≪講評≫

【会長】

- ・行政にできることは限られているため、市民の皆さんが情報を発信し、共有し、また交流することが重要である。様々な人と会って話をすると様々な視点からの意見を聞くことができると考えており、本日もいろいろと学ばせていただいた。
- ・市外の岐阜県民に各務原市はどのように思われているかという点、やはりイオンである。イオンでも各務原市の情報を発信しているため、多くの人に来てもらえると良い。
- ・各務原市はそれほど不便ではなく、こちらのグループでも都会すぎず田舎すぎないという意見があった。川島など、人口が増えている地域もある。
- ・皆さんの暮らしや働き、交流が、より良い各務原市のこれからのまちづくりへ繋がっていけば良い。総合計画や総合戦略では、もっと人を繋いでいく、もっと楽しい各務原をつくるということを目指している。数値目標でどこ

	<p>までいけば幸せかはわからないが、皆さんが様々なことをやっていく中で、そういった部分が生まれてくるのではないか。</p> <p>3 その他</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本懇話会においていただいたご意見は、今後の本市のまちづくりの参考とさせていただきます。 ・これをもって、令和7年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会を閉会する。
資料	<p>資料1 しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会構成員名簿</p> <p>資料2 デジタル田園都市国家構想交付金事業効果検証シート</p> <p>資料3 令和7年度第1回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会意見対応表</p> <p>資料4 各務原市総合計画後期基本計画「事業の達成指標」達成状況</p> <p>資料5 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略「重要業績評価指標（KPI）」達成状況</p>
備考	